

内容項目名	節度，節制（内容項目 A－（3））		
資料名	「かぼちゃのつる」（出典「小学校道徳 みんななかよく」東京書籍）		
学校名	九十九里町立九十九里小学校	指導者名	榎澤 芳江

1 学習指導案

小学校 1 年 1 組 道徳学習指導案

平成 2 9 年 1 1 月 2 1 日（火）5 校時

（1）主題名

わがままな行い

（2）ねらい

周りの人のことを考え，わがままをしないで生活しようとする気持ちをもつことができる。

（3）主題設定の理由

「節度，節制」は，「健康や安全に気をつけ，物や金銭を大切にし，身の回りを整え，わがままをしないで，規則正しい生活をする。」に関する内容項目である。

基本的な生活習慣の中でも，わがままをしないで生活するにはかなりの自制心が必要である。自分さえよければよいという自己中心的な生活態度では，集団の中で気持ちよく生活することはできず，他人にも迷惑をかけてしまうことになる。そうならないためには，周りの人のことを考えて生活することと，自分の心に節制を持ち，節度ある生活をするのが大切であることを自覚できるようにさせたいと考える。

この時期の児童は友達も多くなり，相手を思いやる行動もできるようになってきているが，まだ自己中心的でわがままも多い。また，他人の忠告を素直に聞き入れずに，思わぬ失敗をしてしまうことも多い。このような時期に，資料を通してわがままをしないで生活しようとする気持ちをもたせたいと考え，本主題を設定した。

普段の生活の中で，つい自分のことだけを考えてわがままをしてしまう児童がいる。その際に，周りの人のことを考えて行動できるように導いていきたい。そうすることが，「B－（6）親切，思いやり」につながる。また，わがままをすると，周りの人に意地悪をしようとしているわけではなくても，結果的に迷惑をかけてしまうことがあるということについても触れていく。これは，人に迷惑をかけることはよくないことであることから，「A－（1）善悪の判断，自律，自由と責任」につながると考える。

（4）展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (3)	1 かぼちゃのつるの写真を見 て話し合う。 ○この写真を見てどう思います か。	・つるがいっぱい伸びて いる。 ・アサガオやお芋のつる もそうだった。	・かぼちゃは，どんなところ にでもつるを伸ばして広 がっていくイメージを持 たせる。
展開 (3 5)	2 資料「かぼちゃのつる」の紙 芝居を聞いて，話し合う。		・集中して聞けるように児童 を前に集める。 ・紙芝居では，補説を加えな

	<p>○初め、かぼちゃは、なぜ怒っていたでしょう。</p> <p>○泣いているかぼちゃの気持ちを考えましょう。</p> <p>3 4つの場面から1つを選び、ワークシートに書き、ペアで話し合う。</p> <p>○かぼちゃは、どうしたらよかったのかを考えよう。</p> <p>○場面ごとにペアで発表して、どう思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わがままだから ・つるを伸ばしたいのに邪魔された。 ・大きくなりたいだけに、みんながうるさい。 ・ああん、ああん、痛いよう。 ・こんなにつるを伸ばさなければよかった。 ・みんなの言う事を聞けばよかった。 ・わがままをしなければよかった。 <p>【みつばちに会った場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邪魔になるから、そっちに行かない。 <p>【ちょうに会った場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありがとう。教えてくれて。 <p>【すいかに会った場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の畑で伸ばすよ。 <p>【子犬に会った場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね。これからは道に出ないよ。 ・いい気持ちになった。(かぼちゃ) ・分かってくれてうれしい。(みつばち、子犬等) ・みんながいい気持ちになった。(見ている人) 	<p>がら読み聞かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に何と注意されたのか、絵と吹き出しを黒板に貼りながら確認する。 ・みんなは、かぼちゃのことをどう思っているのかを考えさせる。 ・かぼちゃの絵を持たせて発表させることで、かぼちゃの心情を共感的にとらえられるようにする。 ・「痛いよう。」の後に、言葉を付け足してみるよう助言する。 ・かぼちゃは、後悔していることをとらえさせる。 ・ペアで1つの場面を受け持って考えさせることで、1つの場面について深く考えさせる。 ・まず、自分の意見を書いてからペアで話し合うよう助言する。 ・ペアで、かぼちゃ役とみつばちや子犬等の役に分かれて、考えた言葉を言ってみよう伝える。 ・役割札を使って、ペアで役割演技をする。 ・全部の場面が出なくてもよいこととする。 ・みんながいい気持ちになって、かぼちゃの顔はどうなったかを考えさせる。
--	---	--	---

終末 (7)	4 これからの自分を考え、ワークシートに書き、発表する。 ○これからみなさんはどうしていきたいですか。	・わがままをしない。 ・友達のことを考える。	・今までの自分を振り返り、これからはどうしていきたいかを考えさせる。
-----------	--	---------------------------	------------------------------------

(5) 他の教育活動との関連

授業の終末で今後の自分について考えさせる場面を設けることで、これからの学校生活につなげていきたい。

2 事後検討会

(1) 授業記録

- T かぼちゃの畑を見たことがありますか。
S ある。
T では畑を見せてあげるよ。つるが伸びているのが分かりますか。
T どんどんつるが伸びていきます。隣の方にも。
T アサガオやお芋を育てた時も伸びてたよね。
S つるが伸びてた。
T つるでリースも作ったよね。今日は、かぼちゃのつるのお話です。
T 紙芝居を読みます。みんな集まって下さい。
T (読み聞かせをする)
T みつばちさんは、どんな顔をしてましたか。
S 悲しそうな顔。
T ちょうちょさんは。
S 困っている。
T すいかさんは。
S 悲しそう。
T 最初のかぼちゃは、どんな顔をしてましたか。
S プンプン顔。
T なんでこんなに怒っていたのかな。
S みつばちさんとかが、こっちはすいかさんのとこだよと言ったから。
S どうしたのと言われると怒りたくなるんだ。
S 変なことを言うから。
S 行っちゃいけないとこなのに。
S かぼちゃはいじわる。
T 困らせようとしているのかな。かぼちゃのことをどう思っていますか。
S 悪い子。
S みつばちの言う事聞いていけばいいのに。
S わがまま
T ずっとわがまましてたらどうなったのかな。
S 車にひかれて泣いた。
S 痛いよー。わーん、わーん。
T (泣いているかぼちゃの演技) どう思っているのかな。
S あんなことやらなければよかった。
S 最初から聞いておけばよかった。

T わがまましなければよかったと反省したね。
T かぼちゃはどうしたらよかったのかな。
T 2人組で相談して考えてみましょう。
S (場面を選ぶために、ペアで相談する)
T (机間指導で個別に支援)
T 終わったら、ペアの友達と相談して下さい。
T 役の確認をします。
T では、前で発表してみましょう。
S (みつばちに注意されて) 分かったよ。じゃあつるをどかすよ。手伝って。
S いいよ。
T どうでしたか。
S (かぼちゃ) すっきりした。
S (みつばち) うれしくなった。
S (聴衆) よかった。
T ほかに発表してくれる人はいますか。
S (ちょうに注意されて) はい。すいません。空いている方に行きたかったけどすいません。
T どうでしたか。
S (ちょう) いい気持ち。
S (聴衆) いい感じ。
S いつも怒っていた顔が普通になってよかった。
T ほかの場面はどうですか。
S (すいかに注意されて) 分かったよ。
T どうでしたか。
S (すいか) 気分がよくなった。
T ほかの場面はどうですか。
S (子犬に注意されて) もうやらないよ。分かったよ。
T どうでしたか。
S (子犬) うれしい。
S めいわくかけたくなかったけど反省してる。
T では、かぼちゃさんは、どう言えばよかったのかまとめましょう。
S わかったよと言えばいい。
S あっちへ伸ばす。
S ごめんね。
S すみません。
T 素直でみんなも嬉しそうですね。みんながどうなりましたか。
S みんながいい気持ちになった。
T (笑顔のかぼちゃの絵を見せて) かぼちゃさんの顔はどうなりましたか。
S にっこり笑顔になった。
S かぼちゃさんも嬉しそう。
T 今度は、自分のことについて考えましょう。これからみなさんは、どうしていきますか。
S (ワークシート) わがままをしない。
S (ワークシート) 強く言わない。

(2) 授業の感想

(児童の感想)

- ・みんなに強く言わない。
- ・友達がやなことをしない自分になりたい。
- ・わがままをしない。
- ・いじめをしないで人に優しくする。
- ・わがままがいけないことがわかった。
- ・ごめんねを言う。
- ・お友達を困らせない。
- ・わがままをお友達に言わないようにする。
- ・友達のことを怒ったりしないで優しくする。

(保護者の感想)

- ・役割演技では、「1, 2, 3, ぼん」で切り替えながら演じさせていくことで、児童たちの集中力が高まっていたと思います。
- ・実物のかぼちゃ、また、児童たちに身近であるかぼちゃ畑の写真があって、児童たちがひきつけられていました。
- ・考える場面では、「かぼちゃはどうすればよかったのか」という問題をしっかりとつかませ、自分なりの返事の仕方を考えており、主人公の気持ちを考えることではなく、改善する方法を考えさせていたのがよかったと思いました。
- ・つるの伸び方を映像で見せていたことで、児童たちの意欲を高めていたのがよかったです。
- ・プリントも1年生の実態に合った分かりやすいプリントでした。
- ・黒板の掲示物もとても分かりやすかったです。
- ・役割演技での児童たちの様子がよかった。
- ・児童たちの発言を全て取り上げていて、児童たちは先生に認められながら伸び伸びと授業を受けている様子が伝わってきました。
- ・ペアで学習していたので、児童たちどうしがお互いの考えを交流させることができているようです。
- ・児童たちの活動が多く、多くの児童たちが集中して取り組んでいました。
- ・役割演技を行った児童だけでなく、見ている児童たちにも感想を尋ねていたため、みんなが参加している雰囲気だったと思います。

3 本事例の活用に関する留意点

(1) 役割演技について

ペアで話し合い、役割演技の場面設定を行った。ペアで役割演技の言葉を考えることにより、相談しながら多様な考え方に触れることができる。1年生という実態を踏まえれば、個別で考えるのではなく、ペア等の複数で考えることは大切な方法の一つである。また、発表の自信にも繋がる。

さらに、役割演技で重要なことは、聴衆にも感想や意見を尋ねることである。そうすることにより、聞いている児童も授業に参加する意識や意欲が高まってくると考える。また、道徳的実践力も養うことができる。役割演技は、低学年だけでなく、高学年でも効果的に活用できるツールである。

(2) 板書の工夫について

児童の考えがわかるように、構造的な板書を行った。また、板書の掲示物とワークシートの色を合わせ、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた板書を心がけた。児童にとって分かりやすい授業の大切な要素の一つとして、板書の工夫が挙げられる。指導内容によって、どのような板書にするのかを検討することは大変重要である。